

# 工学系研究科建築学専攻所蔵 旧備品台帳 (四)

## 旧工科大学所蔵資料

角 田 真 弓

### 一 はじめに

前稿<sup>一</sup>において建築学専攻所蔵の旧備品台帳より旧工部美術学校および工部大学校所蔵品に該当する項目を紹介した。本稿は最終回として、工科大学時代の所蔵資料を中心とする項目を紹介し、これら旧備品台帳項目より、建築学専攻における備品群の成立過程を整理したい。なお、建築学専攻へと引き継がれた経緯、旧備品台帳の説明に関しては、前稿を参照されたい。

### 二 工科大学の設置と造家学科の名称変更

まず始めに簡単に工科大学の成立過程を簡単に整理したい<sup>二</sup>。明治一九年、帝国大学令交付により設置された工科大学は、工部省の教育機関であった工部大学校と文部省管轄の教育機関である東京大文学部との二つの系統の学校が統合され発足する。両校では一部で重複する専門教育を行っており、東京大文学部において重複する学科を理学部より工芸学部として独立させ（明治一八年一二月）、

一方の工部大学校も同年に文部省へ移管し、両校が統合する形で翌一九年三月に帝国大学工科大学が発足する。その後、東京帝国大学工科大学、工学部と約三〇年の間にも次々と組織が改編されてゆくが、同時期に学科組織も分割、統合、新設が行われ、結果、造家学科（のちの建築学科）、電気工学科のみが学科の改編が行われていないことがわかる。この造家学科であるが、現在の建築学科へと明治三十一年に名称変更がされており、これは前年の造家学会が建築学会への名称変更を受けてのことである<sup>三</sup>。この名称変更の経緯に関しては再検討が必要であるが、別稿に改めたい。

### 三 目録の紹介

本稿では、『旧備品台帳』より工科大学時代に成立した項目である「セ」印「見取図標本」を中心に紹介したい。

#### (一) 見取図標本

「セ」印「見取図標本」と分類され、明治二四年九月二九日付よ



おこの見学実習は建築学科のカリキュラムに存在するが、当時の見学実習は多くの時間を実習に費やすものであった。

この見学実習に関しては、詳細な記録が残る伊東忠太の日記<sup>五</sup>を元に紹介したい<sup>六</sup>。年度代わりの夏期休暇期間、一年次では日光方面、二年次では京都奈良方面の建築見学実習が行われた<sup>七</sup>。ほぼ同時期に行われた両実習であるが、伊東の日記によると、日光へは中村達太郎が、京都奈良へは木子清敬が引率をしたことが解る。さらに現存する彩色図を確認すると、二年次の京都奈良見学実習は建築内外のスケッチ、透視図のほか建築意匠で特徴的な幕股、組物などが大半を占めるが、一方の一年次末に行われた日光見学実習の図は彩色文様の模写図が多く、建築というよりもむしろ文様図案の実習であるという感が否めない。このような文様彩色図をなぜ建築学科の学生に描かせていたのか検討する上で、当時の日光東照宮の状況を確認したい。

明治期の日光  
といえ、東照  
宮を始めとする  
建築群の明治修  
理が思い起こさ  
れる。明治維新  
以降修繕費の目  
処もなく維持す  
ら危ぶまれた日

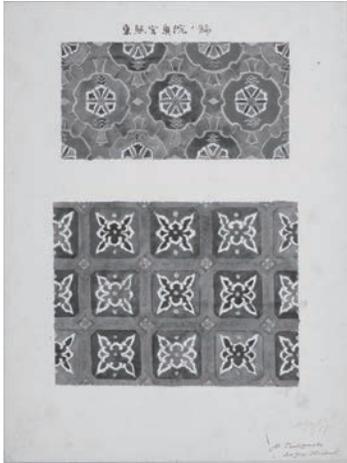


図2 「セ 33 日光山各廟社裝飾図」  
東照宮奥院ノ飾『日光山各廟  
社裝飾図其一』（塚本靖、明治  
24年7月24日）(01\_026)

光の復興を求め、明治一二年保見会が設立される。先行研究によると<sup>八</sup>、当初は予算不足から土台柱などの雨露による腐敗箇所修理のみの予定であったが、明治二〇年には「彩色彫刻等ヲ模写シ修繕ノ模範ニ供スル事」を決定する。その後、明治二六年の修繕調査委員の任命、二七年には保見会から日本漆工会と東京美術学校への調査依頼がなされるが、この時点では工科大学関係者との修理事業には接点が見られない。その後、明治二九年には当時工科大学講師であった木子清敬に対し建築実測調査依頼がなされ、木子は当時大学院生であった塚本靖と大沢三之助を派遣することとなる。現存する日光文様彩色図を確認すると、明治二四年から三四年に製作されたものであり、この一連の修理事業と同時期に進められていると言える。しかし、



図3 「セ 275 各府県二関スル見取図」 日光山各廟  
社裝飾図」京都御所内御茶室聴雪『各府県見取図』  
(野口孫市、明治26年7月20日) (01\_068)

## ②実測図

先に紹介した彩色図が裝飾に重点を置かれた図であったのに対し、次に紹介する実測図とは平面図、立面図、断面図といったいわゆる建築図である。備品登録が最も早いものは明治三一年八月に保岡勝也、日高胖らによつて恐らくは見学実習時に実測された「セ340 実測図（二条城）」（明治三二年三月一〇日登録）であるが、彩色図同様制作年と登録年は必ずしも一致しておらず、現存物のうち制作年が判明しているもので一番古い実測図は明治二八年八月の図が確認できる<sup>五</sup>。また先の彩色図は大半が学生の実習作であるのに対し、現存物のうち学生の署名がある図の大部分は備品番号が付されおらず、備品とはならなかったことが解る<sup>六</sup>。

そもそも大学における実測図作成の始まりは、伊東忠太が明治二六年四月に行った法隆寺実測調査と言われている<sup>七</sup>。これは火災焼失等を危惧してものであるが、当時工科大学教授であった辰野金吾の奨励のもと進められた<sup>三〇</sup>。その後辰野金吾の提案、もしくは大学院生であった伊東の助言を受けてか、翌年の明治二七年には二次の建築見学実習において関野貞が平等院鳳凰堂を実測している<sup>三二</sup>。恐らくはこの年の見学実習より実測調査が組み込まれたのである。関野によるとこの実測調査に二五日を費やしており、伊東の法隆寺金堂実測同様、本格的な実測調査であったと思われる。先に述べたとおり、二年次の見学実習には講師であった木子清敬が同行しており、伊東に「寸法博士」と評される<sup>三四</sup>ほどに建築構造や部材、木割に明るい木子がこの実測調査に大きな役割を果たしたことは想

像に難くない。

同時期には明治三〇年の古社寺保存法公布により古建築修理が始められるが、ここでも内務省の指導の下、二種の実測図が作成されることとなった<sup>三五</sup>。一方は古社寺保存法により認定された全国の特別保護建造物の実測図であり、他方は修理工事に伴う実測図である。前者が指定説明を補い、対象建造物がどのような建築か目録化するための実測図であるのに対し、後者は修理工事を行うに当たり、破損状況の把握、修理方針の検討をするための実測図であった。つまり、この古社寺保存事業の祭に作成される実測図よりも早い段階で、工科大学において実測図は作成されるようになったことが解る。古社寺保存の際の実測図は工科大学出身の内務技師伊東忠太<sup>三六</sup>、関野貞<sup>三七</sup>のもと作成が進められており、これら古社寺保存にかかる実測図作成の前史と考えてみても、工科大学で行われた見学実習時の実測図作成は有効であったと考えられる。

また、実測図の中でも特筆すべきは明治三四年一〇月三〇日に納められた「セ370 法隆寺平面図」から「セ381 二条城断面図」の一連の実測図であろう。現在、「セ375 鳳凰堂断面図」を除き、四建築十一枚の図面が現在も確認されている。幅一五〇センチ以上の着色された図面を絹本軸装しており、さらに図面の室名表記はすべて英語、もしくはローマ字で書かれており、各図面の右下には「MEASURED AND DRAWN BY ARCHITECTURE STUDENTS, TOKYO IMPERIAL UNIVERSITY」と記される。この図面十二点は一九〇〇年開催のパリ万国博覧会の第一部教育部

に出品された図面であることが解る<sup>一八</sup>。この博覧会へは、工科大学より計三二点の出品がなされるが、この工科大学の取扱主任官は中村達太郎であることから、本博覧会への出品物の選定には中村の意向が働いていたのだらう。本実測図は一月に会期終了後、日本へ輸送され、工科大学の備品として登録されたものと考えられる。

この他の旧備品台帳と現存物双方を確認すると、学生の実習製作であると確認できる実測図は明治三九年までであり、恐らくはこの頃には見学実習での実測図作成は行われなくなった可能性が高い。旧備品台帳においても、見取図標本の項目で実測図が纏まって登録されているのは明治三八年三月登録の「七382・493 古社寺実測図」以降であり、この頃より実測図の位置づけが変わっていったと考えられる。当初は自らが図面を描くことで建築を理解する事を目的としており、その成果物である実測図はいわば副産物でしかなかった

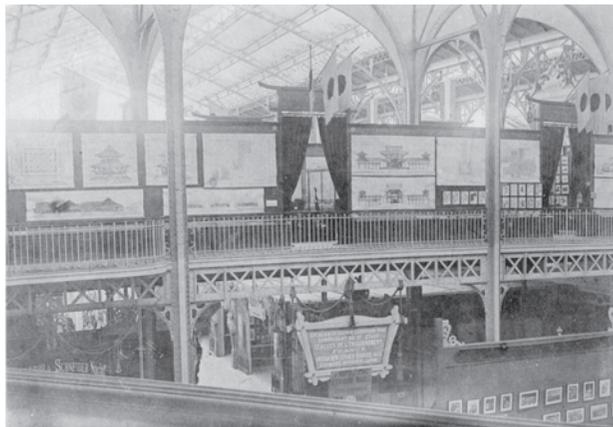


図4 1900年巴里万国博覧会第13部教育及學術用具日本部  
 (『千九百年巴里万国博覧会臨時博覧会事務局報告』より)

が、明治三〇年代後半になると、実測をする事で建築を理解すると言う当初の目的は薄まり、実測図を見ることで建築を



図5 「大和大毫寺多宝塔実測図 明治29年8月19日実測并製図 工科大学造家学科学学生武田五一、山口孝吉、松室重光」

理解するようになったと想定できる。事実、昭和に入る頃には実測図作成のプロとも言える文化財建造物修理技師である村上義雄、乾兼松等より図面を購入しており、さらには図工を雇い実測図を増やしてゆく。同様の実測図は「特別保護建築図」として東京美術学校においても明治四一年に購入されており<sup>一九</sup>、図面として実測図の位置付けが確

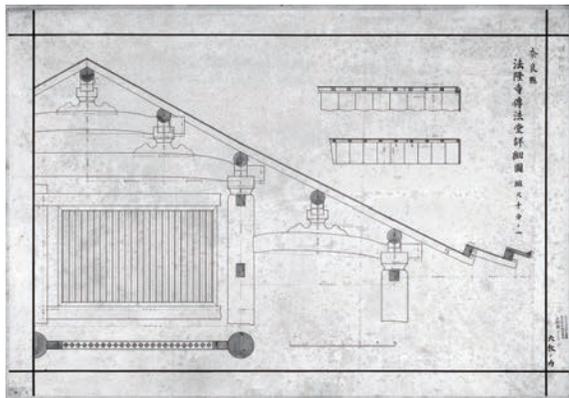


図6 「七1000 法隆寺伝法堂実測図」法隆寺伝法堂詳細図(村上義雄)

定したと考えられる。

### ③ 模写図

先に分類した「彩色図」が一部の文様やスケッチ図であったのに対し、ここで分類する模写図は大半が実寸大であり、かつ絵画、図案を専門とする学外者により製作された図を指す。また、彩色図が本来あるべき理想状態を描いているのに対し、模写図は欠損、剥離、汚れなどの現状をそのまま描いた図である。

近代日本において国家的に模写事業が進められた背景には、明治初年の廃仏毀釈と海外流出により危機的状況に置かれた文物を保護するために布告された「古器旧物保存方」、後に制定された「古社寺保存法」と深く関わりとされる。先行研究によると、博物館（現東京国立博物館）において模写事業自体は明治一〇年代より進められていたが、殖産興業振興を目的とする意味合いが強く、より保存が意識されたのは博物館が宮内省移管となり明治二二年に帝国博物館と改称されたからという。当時帝国博物館美術部長東京美術学校校長を兼務していた岡倉天心は、この模写事業を美術学校や諸工芸学校の生徒等が行うことと規定した。このことにより、多くの模写が作成され、現在なお東京国立博物館が所蔵する所以であるという。東京芸術大学も多数の模写を所蔵するが<sup>三</sup>、同様の理由からである。しかし工科大学で所蔵する模写図は、これらの模写図とは異なるものである。

明治三九年三月に登録された「セ561・582 鳳凰堂内部装飾」は澤

部清五郎の模写であり、二二点の模写図が一四巻の卷子に纏められている。各模写図には武田五一の朱文方印とともに「澤部瑞溪模写」の墨書がある。工科大学助教教授であった武田五一は二年以上にわたる欧州旅行から帰国後、明治三六年に京都高等工芸学校（現京都工芸繊維大学）主任となった。さらに武田は明治三七年には京都府技師を兼任することとなり、鹿苑寺金閣、平等院鳳凰堂修理事業に技師として関わることとなる。一方の京都出身の澤部清五郎は画学校などに通うことなく旧来の徒弟門下で日本画を学んでいたが、紹介により二代・川島甚兵衛の依頼により模写を請け負い、画才が認められたことで、川島織場の図案製作を中心に活躍した。模写作成当時は二一歳であり、美術学校や画学校には属していない澤部がどのような経緯から武田の依頼を受け、模写図を描いたのであろうか。恐らくは川島を通して京都高等工芸学校教授であった浅井忠とも面識を持ち、その浅井を介して武田と知り合うことになったと考えられる。あくまでも建造物の修理技師として指揮を執っていた武田ではあるが、明治三八年五月に澤部と杉浦香峰に天井壁画等の調査を委嘱し、さらに翌三九年にはもう一つの担当現場である鹿苑寺金閣の天井画調査を澤部に委嘱しており、これらの模写図は京都高等工芸学校に納められている。澤部の略年譜によると、明治三九年三月にも鳳凰堂模写図を納めているが<sup>三</sup>、この模写図こそが建築学専攻所蔵の「鳳凰堂内部装飾」である。この東大所蔵模写図を京都工芸繊維大学所蔵の模写図と比較すると、側面扉絵三点のみが重複しており、その三点には「複模本」と記されていることから、東大所

蔵模写は京都工芸繊維大学所蔵模写の複本であることが解る。また、京都工芸繊維大学模写が扉絵のみであるのに対し、東大建築模写は壁画のうち、建物が描かれている部分や柱や無目、梁の文様などの模写図であることから、より建築教材としての性質が強い模写図と言えるであろう。

この平等院模写図を始

まりとして、明治四一年の室生寺金堂、四二年の興福寺三重塔、北円堂、富貴寺、四五年の栄山寺八角堂の模写図が納められている。これらはすべて小場恒吉の手により<sup>三</sup>、そしてこの模写製作を依頼したのは関野貞と想定される。関野は、武田の留学に伴う後任人事で、明治三四年九月に奈良県技師を辞し工科大学助教教授となるが、明治四一年以降、矢継ぎ早に模写図を購入していることが解る。ここで、関野自身がいつから模写図製作の重要性を認識したのか考えてみると、自らが修理技師として現場に赴任していた時期には模写図を作成していいことから、推測の域を出ないが、恐らくは当初は模写図の必要性を感じてはいなかったと思われる。一方の、後



図7 「セ 569 鳳凰堂内部装飾」 下品上生図 (往生者の家) 複模本 (澤部清五郎)

に模写図製作を依頼する小場自身は、美術学校在学中の明治三四年には東大寺三月堂の仏像復元模写、三五年には後に澤部が模写し京都高等工芸学校と工科大学へ納めた鳳凰堂阿弥陀来迎図(南面扉絵)の模写を自発的に行っており、東京美術学校図案科一期生であったことから、模写行為に対する関心は学生時代より高かったことが解る。もし早い段階で関野が模写図の重要性を念頭に置いていれば、先に述べたとおり博物館における模写事業を引き受けていた美術学校の正木直彦を介し、自発的に模写を行っていた小場に依頼することは容易であったであろうが、そのようなことはなかった。事実、小場の手による鳳凰堂模写は明治三七年三月に東京美術学校が購入している。このことから、武田の鳳凰堂修理の際に製作された澤部による鳳凰堂模写が契機となり工科大学における模写図の蒐集を始めたと考えるのが妥当である。

小場恒吉は明治三六年東京美術学校図案科卒業後、故郷秋田の工業高校で教員となるが、明治四一年には東京に戻り、東京美術学校

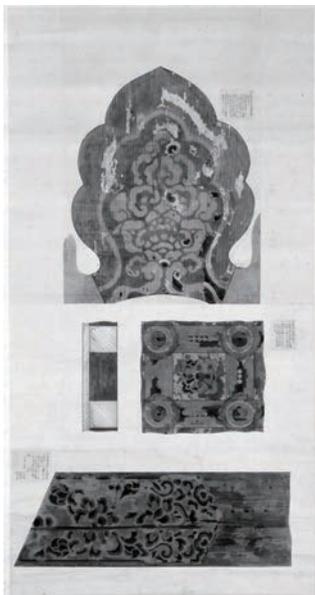


図8 「セ 636 興福寺北円堂格天井其他装飾」 (小場恒吉)

表1 旧備品台帳「セ 見取図標本」内日本建築模写図及び東京芸術大学  
大学美術館所蔵小場恒吉日本建築模写図一覧

名 称	点数	作 者	納 入 年	備 品 番 号	現 所 蔵
鳳凰堂内部装飾図	1	小場恒吉	M37.3.19	建築-79	芸大美
鳳凰堂内部装飾図	1	小場恒吉	M37.3.19	建築-80	芸大美
鳳凰堂内部装飾	22	澤部清五郎	M39.3.9	セ 561-582	東大建築
橋夫人厨子壁画及台座模様写シ	3	(不明)	M40.11.29	セ 627-629	東大建築
法隆寺金堂天蓋模様	36	(不明)	M40.3.14	セ 584-619	東大建築
法隆寺虚空蔵光背模様	2	(不明)	M40.3.14	セ 620-621	東大建築
法隆寺橋夫人厨子壁画及台座模様写シ	5	(不明)	M40.3.14	セ 622-626	東大建築
室生寺金堂壁画写シ	5	(不明)	M41.11.19	セ 630-634	東大建築
興福寺三重塔内陣装飾	1	小場恒吉	M42.11.24	セ 635	東大建築
興福寺北円堂格天井其他装飾	1	小場恒吉	M42.11.24	セ 636	東大建築
興福寺北円堂蓑股装飾	1	小場恒吉	M42.11.24	セ 637	東大建築
富貴寺壁画	1	小場恒吉	M42.11.24	セ 638	東大建築
富貴寺長押及鴨居装飾	1	小場恒吉	M42.11.24	セ 639	東大建築
富貴寺小壁ノ画	1	小場恒吉	M43.3.8	セ 640	東大建築
室生寺金堂 地藏菩薩光背模様	1	小場恒吉	M43.6	東洋画模本-3771	芸大美
室生寺金堂 釈迦及文殊蓮弁之図	1	小場恒吉	M43.6	東洋画模本-3772	芸大美
室生寺金堂 帝釈曼荼羅	1	小場恒吉	M43.6	東洋画模本-3773	芸大美
室生寺金堂 本尊釈迦光背	1	小場恒吉	M43.6	東洋画模本-3774	芸大美
河内観心寺如意輪観音蓮弁之図	1	小場恒吉	M43.6	東洋画模本-2954	芸大美
柴山寺八角円堂貫及天蓋模様	3	小場恒吉	M45.2.5	セ 685-687	東大建築
法隆寺金堂内虚空蔵并光背模様	1	小場恒吉	M45.2.5	セ 688	東大建築
法隆寺玉虫厨子模様	1	小場恒吉	M45.2.5	セ 689	東大建築
薬師寺四天王文様	1	小場恒吉	M45.2.5	セ 690	東大建築

『東京芸術大学大学美術館蔵品目録』東京芸術大学美術館および  
『旧備品台帳』東京大学大学院工学系研究科建築学科専攻より作成

図案科助手となる。明治四〇年より東京美術学校での講師を再開していた関野は小場に出会い、模写製作を委嘱したと考えられる。もしくはそれ以前より模写の適任者である小場が戻ることを待ち望んでいたのかもしれない。この時に製作された模写はどれも奈良県内の修理中の建造物であり、明治二九年より工科大学に着任するまで自らが技師として指揮し、後任者の天沼俊一が担当する修理現場であった。

この関野と小場との関係が、後の朝鮮半島における高句麗古墳群の壁画模写へと繋がることとなる。明治四二年より朝鮮総督府（当時は度支部）の委嘱により古蹟調査を行っていた関野は、地元民や、東京美術学校での教え子である太田福蔵の話から高句麗古墳の存在を確信し、大正元年に初めて高句麗壁画古墳調査を行う。この際に模写担当として同行したのが、古墳の存在を伝えてくれた太田福蔵と日本国内の模写製作を通して全幅の信頼を置いていた小場恒吉だった。この際に作成された模写はすべて李王家博物館へと納められているが<sup>三四</sup>、作成途中の下絵は日本に持ち帰られる。この下絵をもとに再度製作された模写図が工科大学と東京美術学校に納められていることは既に確認されている。関野および小場が調査を



図9 「セ 931 朝鮮古墳壁画模本」江西南墓室東壁青龍模写（小場恒吉）

表2 関野貞による高句麗古墳調査及び模写図一覧

古墳名	調査年	調査者	模写年	作成者	日本での所蔵	備品番号	納入年月日	中央博所蔵 模写
江西大墓	1911 (見学) 1912 (発掘)	関野貞	1912/1913	小場恒吉・ 太田福蔵	東大建築	セ 931	T3.3.28	○ 5
江西中墓	1911 (見学) 1912 (発掘)	関野貞	1912/1913	小場恒吉・ 太田福蔵	東大建築	セ 931	T3.3.28	○ 1
肝城里蓮華塚	1912 (発掘)	関野貞	1912	小場恒吉・ 太田福蔵				○ 1
梅山里狩塚	1913 (発掘)	関野貞	1912/1913	太田福蔵・ 小場恒吉	東大建築	セ 931	T3.3.28	○ 6
花上里龕神塚	1913 (発掘)	関野貞	1914	小場恒吉	芸大美	東洋画模本- 4092	T4.11.9	○ 40
花上里星塚	1913 (発掘)	関野貞	1914	小場恒吉				○ 6
安城洞大塚	1913 (発掘)	関野貞	1914	小場恒吉	芸大美	東洋画模本- 4093	T4.11.9	○ 20
双楹塚	1913 (発掘)	関野貞	1914	小場恒吉・ 太田福蔵	芸大美・ 東大建築	東洋画模本- 4094 ~ 4107 セ 992・994	T4.11.9/ T14.3.25	○ 20
三室塚 (集安)	1913 (発掘)	関野貞						
美人塚 (集安)	1913 (発掘)	関野貞						
亀甲塚 (集安)	1913 (発掘)	関野貞						
散蓮華塚 (集安)	1913 (発掘)	関野貞						
鏡馬塚	1916 (発掘)	関野貞	1917	小場恒吉				○ 17
湖南里四神塚	1916 (発掘)	関野貞	1917	小場恒吉				
天王地神塚	1916 (発掘)	関野貞	1917	小場恒吉				○ 8

『高句麗古墳壁画模写図』所載リスト、国立公州博物館、2004年。  
『高句麗古墳壁画-国立中央博物館所蔵模写図-』国立中央博物館、2006年。  
早乙女雅博「高句麗壁画古墳の調査と保存」『関野貞アジア踏査』、2005年より作成

した壁画古墳を整理すると表の通りとなる。両校の模写図には重複するものはなく、どのような意図で壁画模写図が工科大学と東京美術学校で振り分けが行われたのかは定かではない。

当初は関野の嘱託で始められた小場の朝鮮半島における古墳調査であったが、古墳調査専従を切望するまでに高句麗古墳壁画の魅力にとりつかれ、関野が欧州旅行で不在となる大正七年二月〜九年五月の間にも全羅南道羅州附近(大正七年一〇月)、慶尚南道昌寧邑校洞(大正八年)等の古墳調査を続ける。さらには、大正五年の発掘時に発見した副葬品である楽浪漆器<sup>五</sup>にも関心を抱き、文様研究のため再調査を行っている。この成果は、東京芸術大学に『楽浪時代漆器模様図解』と題する経本綴に纏め納められている<sup>二六</sup>。現在確認がされていないが「セ993 朝鮮平安南道大同郡大同江面古墳出土漆器文様模写」(大正一四年三月納入)はこの芸大本と類似、もしくは同じ内容の模写であった可能性が高い。

## (二) 正倉院御物写シ巻物

「に」印「正倉院御物写シ巻物」と分類され、明治三九年八月六日付で八巻が登録される。この正倉院御物写は全八巻現存が確認されており、先行研究<sup>二七</sup>において森川杜園により明治五年から一三年にかけて行われた正倉院宝物調査の際に作成された模写の一部であり、杜園没後の明治二七年以降に編集され工科大学へ納められたことが明らかとなっている。この模写図納入の経緯は、未だ不明な点も多く、今後さらなる検討が必要であるが、類似した模写図が東京

芸術大学、東京国立博物館で確認されている<sup>三八</sup>。先に述べたとおり、明治三〇年代には小場恒吉の模写図を始め工科大学所蔵品と東京美術学校所蔵品との関連は非常に深く、これら他機関の模写図との関連を明らかにすることが、本模写図の来歴解明には不可欠であると見えよう。

#### 四 建築学専攻における教育資料群の成立過程

四回にわたり、旧備品台帳のいくつかの項目を紹介し、各項目の特徴を踏まえ考察を進めてきた。そこで、最後に建築学専攻の教育資料の成立過程を総括したい。

従来より工部大学校、工部美術学校の旧蔵品が工科大学へと引き継がれていることは指摘がされている。事実、前稿で紹介した「甲」印「美術石膏製彫刻標本」、「ノ」印「寒水石彫刻標本」、「ミ」印「画手本標本」、「シ」印「芸術参考標本」等は本調査研究において所在が確認がされたが、工部大学校、工部美術学校両校の関係性はまだまだ不明な点が多い。こと建築教育に関しては、工部大学校には造家学科があり、工部美術学校の彫刻科が建築装飾を中心とする教育内容であったことから、両校の関係性が如実に現れていると考えられる。

既に人事の交流がみられないことは指摘したが、それを傍証するように、一連の本研究において工部大学校、工部美術学校間での備品や図書などの貸借、移管などは確認できなかった。つまり両校の開校期間には、一部の個人的な交流を除くと影響関係はみられない。

さらに言えば、工科大学開校当初の教育資料群は、自発的な収集により形成されたのではなく、工部大学校、工部美術学校両校の備品が引き継がれ再編成されたことで形成されたのであり、何らかの意向を反映しているとは言い難い。しかし、結果として形成されたこれら教育資料群であるが、同時期の教育内容に影響を与えたことは言うまでもなく、人事や便覧などの公式記録には記されていない実態を明らかにするひとつの糸口となると考えられ、今後更なる資料調査と検討が求められるであろう。

一 拙稿「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳（一）旧工部美術学校資料」『東京大学史紀要』第二八号、平成二二年、「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳（二）旧工部美術学校資料」『東京大学史紀要』第二九号、平成二三年、「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳（三）旧工部大学校資料」『東京大学史紀要』第三〇号、平成二四年、すべて東京大学史料室

二 詳細は『東京大学百年史』部局史三、昭和六二年、東京大学造家学会から建築学会への名称変更は「造家」から「建築」へ学会命名・改名の顛末」『建築雑誌』一四一〇、日本建築学会、平成九年八月、pp.1321に詳し。

三 拙稿「工学系研究科建築学専攻所蔵旧備品台帳（二）旧工部美術学校資料」『東京大学史紀要』第二九号、平成二三年

四 伊東忠太『浮世の旅』日本建築学会所蔵。

六なお、三年次の京都奈良見学旅行に関しては稲葉信子「木子清敬の帝国大学（東京帝国大学）における日本建築授業について」『日本建築学会計画系論文報告集』三七四号、昭和六二年四月で紹介されている。

七 現存模写図には署名、日付のほか、九月より進級する学年を記している。

八 水漉あまな「保見会の建造物保存について」『日本建築学会大会学術講演梗概集』一九九七年九月

九 明治二八年八月の実測図は東大寺三月堂（福岡常次郎、当時工科大学二年）、当麻寺仁王門（鈴木禎次、同上、池田賢太郎、途中まで在学）、教王護国寺五重塔（氏名記載無し）である。

一〇 例えば明治二九年七月〜八月に工科大学二年の武田五一、山口孝吉、松室重光により製作された実測図として、百毫寺多宝塔、法起寺三重塔、東大寺開山堂、南禅寺三門が現存するが、これらの図面には備品番号が付されておらず、備品登録がなされなかったと考えられる。

一一 清水重敦「建造物記録保存の系譜」保存図「A0の記憶」文化財建造物保存図一「奈良文化財研究所飛鳥資料館図録三九号、平成一四年

一二 清水重敦「伊東忠太と「日本建築」保存」『明治聖徳記念学会紀要』復刻四五号、明治聖徳記念学会、平成二〇年、pp.145-164

一三 関野貞「鳳凰堂建築説」『建築雑誌』一〇二号、明治二八年六月  
一四 前掲注六稲葉論文

一五 古社寺保存法に伴う実測図作成に関しては、前掲注一一清水論文に詳しい。

一六 明治二九年内務省古社寺保存会設置に伴い委員となる。  
一七 明治三六年より内務省技師を兼任する。

一八 『学士会月報』一四一号、明治三二年一月、前掲注一一清水論文参照。『千九百年巴里万国博覧会臨時博覧会事務局報告』上下、農商務省、明治三五年

一九 『東京芸術大学芸術資料館藏品目録凶案・デザイン 建築』東京芸術大学芸術資料館、平成三年

二〇 佐藤道信「近代日本の模写・模造」『模写・模造と日本美術』うつつ・まなぶ・つたえる一『東京国立博物館、平成一七年

二一 『東京芸術大学芸術資料館藏品目録東洋画模本』東京芸術大学芸術資料館、平成七〜一一年

二二 『絵筆のゆくえ インテリアへの道 澤部清五郎』目黒区美術館、京都府京都文化博物館、平成四年

二三 小場恒吉の活動に関しては佐々木榮孝『紋様学のパイオニア小場恒吉』明石ゆり、平成一七年に詳しい。

二四 早乙女雅博「高句麗壁画古墳の調査と保存」『関野貞アジア踏査』東京大学総合研究博物館、平成一七年

二五 現物は総督府博物館におさめられた。  
二六 『楽浪時代漆器模様図解』として平成二〇年に復刻本が刊行されている。

二七 『森川杜園『正倉院御物写』の世界』東京大学大学院工学系研究

科建築学専攻・東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター、平成二一年

三八 原瑛莉子「東京美術学校収集・製作の正倉院宝物模本について」  
『正倉院宝物の近代』 壬申検査から140年』正倉院学術シンポジウム二〇二二、平成二四年一月四日

(つのだ まゆみ 東京大学大学院工学系研究科 建築学専攻)

表3 セ印 見取図標本

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治24年9月29日		セ1	二条城松ノ間ノ図	1	5,800		
明治24年9月29日		セ2	二条城黒書院ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ3	二条城内御門ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ4	本願寺大広間ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ5	智恩院山門二階内部ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ6	芝文照院奥ノ院ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ7	芝文照院仕切間後面ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ8	芝文照院仕切間正面ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ9	芝文照院拝殿入口ノ図	1	5,100		
明治24年9月29日		セ10-49	日光山各廟社装飾図	40	23,400	×折本六冊ノ内、 第一	
明治25年1月20日		セ50	芝猷照院回廊前面ノ図	1	見積 5,100		
明治25年1月20日		セ51	芝猷照院拝殿入口ノ図	1	見積 5,100		
明治25年1月20日		セ52-69	日光山各廟社装飾図	18	見積 10,800	×折本六冊ノ内、 第一	
明治25年2月4日		セ70-100	芝増上寺開山堂内廻り装飾図	31	見積 43,400	折本一冊	○
明治25年2月4日		セ101- 108	奈良法隆寺宝物ノ図	8	見積 8,000		○
明治25年2月4日		セ109- 110	紀州高野山宝物ノ図	2	見積 2,000		○
明治25年2月4日		セ111- 110	本願寺白書院金物ノ図	9	見積 9,000		
明治25年2月4日		セ120- 140	二条城各所格天井ノ図	21	見積 21,000		○
明治25年9月27日		セ141- 200	日光山各廟社装飾図	60	30,000	折本六冊ノ内、第 二巻	
明治25年9月27日		セ201	日光東照宮拝殿ノ図	1	5,000	油画額 昭和10年 3月11日本部へ保 管転換	二重線
明治25年9月27日		セ202	日光東照宮水屋ノ図	1	5,000	油画額 全上(昭 和10年3月11日 本部へ保管転換	二重線
明治26年4月27日		セ203	菟道鳳凰堂内部ノ図	1	5,500		
明治26年4月27日		セ204	二条城離宮白書院ノ図	1	5,500		
明治26年9月14日		セ205- 262	日光山各廟社装飾図	58	29,000	折本六冊ノ内、第 三巻	
明治26年12月12日		セ263	芝文照院表門ノ図	1	5,000		
明治26年12月12日		セ264	芝文照院拝殿ノ図	1	5,000		
明治26年12月12日		セ265	芝文照院仕切御門ノ図	1	5,000		
明治26年12月12日		セ266	芝文照院唐門ノ図	1	5,700		
明治27年2月2日		セ267	上野東照宮拝殿表面見取図	1	3,000		
明治27年2月2日		セ268	上野東照宮拝殿右側ノ図	1	3,000		
明治27年2月2日		セ269	上野東照宮唐門表面ノ図	1	3,000		
明治27年2月2日		セ270	上野東照宮唐門裏面ノ図	1	3,000		
明治27年2月2日		セ271	都久布須麻神社広縁ノ図	1	3,000		
明治27年2月2日		セ272	竹生島観音堂唐破風ノ図	1	3,000		
明治28年10月11日		セ273	日光山各廟社装飾図	1冊70枚	46,500		
明治28年10月11日		セ274	全上(日光山各廟社装飾図)	1冊70枚	28,850		
明治29年1月15日		セ275	各府県建物ニ関スル見取図	1	71,000		
明治29年9月24日		セ276- 317	日光山各廟社装飾図	42枚	21,000	×折本六冊ノ内	
明治29年9月25日		セ318- 323	芝靈屋諸門見取図	6枚	見積 18,000		
明治29年9月25日		セ324	南都白毫寺多宝塔見取図	1枚	見積 3,000		
明治30年11月17日		セ325- 339	各府県建物ニ見取ト装飾図	15枚	15,000	折本一冊	○
明治32年3月10日		セ340	実測図(二条城飛雲閣)	1組34枚	24,000		
明治33年1月24日		セ341- 369	日光山各廟社装飾図	29枚	見積 14,500	×折本六冊ノ内、 ×No.369ハ別ニ	
明治34年10月30日		セ370	法隆寺金堂平面図	1巻	見積 38,000		○

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治34年10月30日		セ371	全(法隆寺金堂)正面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ372	全(法隆寺金堂)断面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ373	鳳凰堂平面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ374	全(鳳凰堂)正面図	1巻	見積 38,000		
明治34年10月30日		セ375	全(鳳凰堂)断面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ376	飛雲閣平面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ377	全(飛雲閣)正面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ378	全(飛雲閣)断面図	1巻	見積 38,000		
明治34年10月30日		セ379	二条城平面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ380	全(二条城)正面図	1巻	見積 38,000		○
明治34年10月30日		セ381	全(二条城)断面図	1巻	見積 38,000		○
明治38年3月10日		セ382-493	古社寺実測図	112枚	134,400		○
明治38年6月25日		セ494-552	法隆寺中門図面	59枚	73,750		○
明治38年6月25日		セ553-560	三月堂図面	8枚	10,000		○
明治39年3月9日		セ561-582	鳳凰堂内部装飾	22枚	80,000		○
明治39年3月19日		セ583	東大寺法華堂図面	1冊54枚	67,500		
明治40年3月14日		セ584-619	法隆寺金堂天蓋模様	36枚	144,250		
明治40年3月14日		セ620-621	同(法隆寺金堂)虚空蔵光背模様	2枚	7,000		○
明治40年3月14日		セ622-626	同(法隆寺金堂)橘夫人厨子壁画及台座模様写シ	5枚	25,000		
				586	1,088		
明治40年11月29日		セ627-629	橘夫人厨子壁画及台座模様写シ	3枚	6,000		○
				589	1,091		
明治41年11月19日		セ630-634	室生寺金堂壁画写シ	5枚	250,000		○
					1,096		
明治42年11月24日		セ635	興福寺三重塔内陣装飾	1巻	40,000		
明治42年11月24日		セ636	全(興福寺)北円堂格天井其他装飾	1巻	10,000		○
明治42年11月24日		セ637	全(興福寺北円堂)幕股装飾	1巻	10,000		
明治42年11月24日		セ638	富貴寺壁画	1巻	50,000		○
明治42年11月24日		セ639	全(富貴寺)長押及鴨居装飾	1巻	25,000		
明治42年11月24日		セ640	全(富貴寺)小壁ノ画	1巻	15,000		
明治43年3月8日		セ641-679	日本建築図面	39枚	10,000		
					1,141		
明治44年11月25日		セ680	日光及芝徳川靈廟装飾図	1冊	35,000		
明治45年2月5日		セ681	棚ノ巻	1巻	1,250		○
明治45年2月5日		セ682	棚ノ巻	1巻	1,250		○
明治45年2月5日		セ683	門ノ巻	1巻	1,750		二重線
明治45年2月5日		セ684	門ノ巻	1巻	1,750		
明治45年2月5日		セ685-687	栄山寺八角円堂貫及天蓋模様	3巻	35,000		○
明治45年2月5日		セ688	法隆寺金堂内虚空蔵并光背模様	1巻	25,000		○
明治45年2月5日		セ689	全上(法隆寺金堂)玉虫厨子模様	1巻	25,000		○

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
明治45年2月5日		セ790	薬師寺四天王模様	1巻	25,000		○
明治45年3月28日		セ791	喜美流天守ノ巻	1巻	1,500		○
明治45年3月28日		セ792	喜美流天守ノ巻	1巻	1,500		○
明治45年3月28日		セ793	喜美流矢倉ノ巻	1巻	1,500		
明治45年3月28日		セ794	天守ノ図	1折	0,500		○
明治45年3月28日		セ795	天守ノ図	1折			○
明治45年3月28日		セ796	天守ノ図	1折			○
明治45年5月20日		セ797	京都御所平面図	1枚	2,500		
明治45年5月20日		セ798	青山御所平面図	1枚	1,500		
明治45年5月20日		セ799	殿中儀式着席	1枚	1,500		
明治45年5月20日		セ700	増上寺平面図	1枚	0,500		
明治45年5月20日		セ701	江戸今川橋近傍ノ図	1枚	0,300		
明治45年5月20日		セ702	能興行場所ノ図	1枚	0,500		
明治45年5月20日		セ703	逢善寺側面図	1枚	0,200		
明治45年5月20日		セ704	東福寺楼門虹梁文様模写	1葉	130,000		○
明治45年6月26日		セ705-827	古社寺実測図	123枚	123,000		○
明治45年6月26日		セ828	全上(古社寺実測図)	1枚	2,000		
大正1年8月29日		セ829-833	東福寺楼門模様模写図	5枚	100,000		
大正1年9月25日		セ834	麻布御殿図	1枚	7,000		
大正1年11月12日		セ835-836	旧江戸城玄関図	2枚	7,000		○
				1,298			
大正2年3月31日		セ837-876	日本建築実測図	40枚	72,000		○
大正2年10月13日		セ877-895	全上(日本建築実測図)	19枚	28,500		○
大正2年12月13日		セ896-920	日本建築図	25枚	30,000		○
大正3年1月29日		セ921-930	日本建築図	10枚	見積 5,000	大窪登寄贈	
大正3年3月28日		セ931	朝鮮古墳壁画模本	1組(31枚)	100,000		○
大正3年7月1日		セ932	江戸城本丸図	1組(112枚)	28,000		○
				1,535			
大正3年11月9日		セ933	万延年間御普請江戸城本丸ノ図	1組63枚	見積 18,900	大島盈株寄贈	○
大正3年11月16日		セ934	日本建築図面類	1組100枚	見積 120,000	吉本郷孝寄贈	○
大正4年4月30日		セ935	奈良春日山地獄谷三尊仏拓本	1幅	3,000		○
大正4年4月30日		セ936	奈良春日山地獄谷三尊仏拓本	1幅	3,000		○
大正4年4月30日		セ937	奈良春日山地獄谷三尊仏拓本	1幅	3,000		○
大正4年5月14日	森松(カ)	セ938	日本建築金具図	1冊	20,000		
大正4年5月14日		セ939-940	全上(日本建築金具図)	2巻	12,000		
大正4年5月14日		セ941	全上(日本建築金具)拓本	1巻	3,000		
大正4年6月28日	二本松	セ942-955	日本建築図	14枚	21,000		○
				1,719			
大正5年4月24日	二本松	セ956-965	日本建築図	10枚	15,000		○
大正5年6月20日	大橋	セ966	春日権現記	3巻	15,000		
大正5年6月20日	大橋	セ967	吉備公遣唐伝巻	3巻	15,000		
大正5年6月20日	大橋	セ968	加茂祭伝巻	1巻	8,000		
大正5年6月20日	大橋	セ969	世諦問答	1巻	5,000		
大正5年6月20日	大橋	セ970	石山寺縁起	5巻	12,000		
大正5年6月20日	大橋	セ971	出産図伝巻	1巻	1,500		
大正5年6月29日	大橋	セ972	類聚雜要抄	7巻	88,000		
大正5年6月29日	大橋	セ973	雲図鈔	1巻	20,000		
大正5年7月5日	国華社	セ974	展覧図録	1部	10,000		
				1,752			
大正5年11月18日	佐野	セ975-979	暖房関係図面	5枚	12,000		○

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
大正6年2月10日		七980	道成寺縁起	2巻	6,700		
大正6年2月12日		七981	浅野侯爵家宝絵譜	1部	17,000		
大正6年2月12日		七982	雪舟山水小軸	1巻	7,500		○
				1,761			
大正7年2月8日		七983	勸及修学院離宮実測図	1組108枚	237,600		
大正7年5月6日		七984	東海道五十三次	1組55枚	17,500		○
大正7年10月16日		七985	勸学院実測図	1組10枚	150,000		○
大正7年10月16日		七986	日本建築参考図	1組125枚	25,000		
大正7年10月16日		七987	丸清版東海道五十三次	1組55枚	32,000		
				2,114			
大正9年1月31日		七988	木曾街道六十九次	1組72枚	35,000		
大正9年4月18日		七989	今昔対照江戸百景	1冊	28,000		
				2,116			
大正11年10月13日		七990	江戸城本丸殿舎造営正寸図	1組19枚	100,000		○
				2,135			
大正14年3月9日		七991	朝鮮建築実測図	1組26枚	100,000	岩井長三郎ヨリ 寄贈	
大正14年3月25日	小場恒吉	七992	朝鮮平安南道真池洞双楹塚内部壁画模写	1組16枚	900,000		○
大正14年3月25日	小場恒吉	七993	朝鮮平安南道大同郡大同江面古墳出土漆器文様模写	1枚	100,000		
大正14年11月30日	小場恒吉	七994	朝鮮平安南道真池洞双楹塚内部壁画模写	1組6枚	200,000	震災復旧費ヨリ 購入	○
大正14年12月7日		七995	広島県尾道市浄土寺茶室実測図	1枚	10,000	文部省宗教局雇ニ 調製ヲ依頼ス	
大正15年6月15日	鈴木久吉	七996	高台寺月見台実測図	1組3枚	30,000		○
大正15年6月17日	牧野正巳	七997	詩仙堂実測図	1組5枚	50,000		
大正15年10月1日	日夏義雄	七998	白水阿弥陀堂実測図	1組4枚	40,000		
				2,197			
昭和5年6月24日	村上義雄	七999	法隆寺東大門実測図	1組6枚	21,000		
昭和5年6月24日	村上義雄	七1000	法隆寺伝法堂実測図	1組6枚	21,000		○
昭和5年6月24日	村上義雄	七1001	東大寺法華堂経庫実測図	1組6枚	21,000		○
昭和5年6月24日	村上義雄	七1002	唐招提寺講堂実測図	1組8枚	28,000		○
昭和5年6月24日	村上義雄・ 乾兼松	七1003	唐招提寺鼓楼実測図	1組11枚	38,500		
昭和5年7月5日	乾兼松	七1004	室生寺金堂実測図	1組5枚	17,500		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1005	室生寺勸頂堂実測図	1組6枚	21,000		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1006	栄山寺八角堂実測図	1組6枚	21,000		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1007	新薬師寺本堂実測図	1組5枚	17,500		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1008	吉野水分神社実測図	1組7枚	24,500		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1009	靈山寺三重塔実測図	1組8枚	28,000		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1010	極楽院本堂実測図	1組7枚	24,500		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1011	春日神社本殿実測図	1組5枚	17,500		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1012	宇治神社本殿実測図	1組9枚	31,500		○
昭和5年7月5日	乾兼松	七1013	本派本願寺能舞台附橋掛実測図	1組9枚	31,500		
昭和5年7月5日	乾兼松	七1014	北野神社三光門、後門及透塀実測図	1組14枚	49,000		
昭和5年7月5日	臨時雇図工	七1015	水無瀬宮茶室実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1016	法隆寺西院経藏実測図	1組10枚	35,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1017	法隆寺西院南大門実測図	1組11枚	38,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1018	法隆寺聖霊院実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1019	法隆寺西室実測図	1組5枚	17,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1020	東大寺法華堂北門実測図	1組5枚	17,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1021	東大寺法華堂手水屋実測図	1組5枚	17,500		
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1022	東大寺仏餉屋実測図	1組6枚	21,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1023	東大寺三昧堂実測図	1組6枚	21,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1024	東大寺大湯屋実測図	1組11枚	38,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1025	室生寺本堂実測図	1組6枚	21,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1026	般若寺塔婆実測図	1組1枚	3,500		

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1027	円融寺本堂実測図	1組9枚	31,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1028	建長寺昭堂実測図	1組12枚	42,000		
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1029	建長寺仏殿実測図	1組25枚	87,500		
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1030	建長寺唐門実測図	1組10枚	35,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1031	笠森寺本堂実測図	1組8枚	28,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1032	金剛寺観月堂実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1033	金剛寺楼門実測図	1組10枚	35,000		
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1034	金剛寺本堂実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1035	太山寺本堂実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1036	浄土寺浄土堂実測図	1組8枚	28,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1037	明王院五重塔実測図	1組5枚	17,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1038	浄土寺多宝塔実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1039	最勝院五重塔実測図	1組14枚	49,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1040	石上神宮拝殿実測図	1組6枚	21,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1041	石上神宮楼門実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1042	都祁水女神社本殿実測図	1組3枚	10,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1043	小野八幡神社本殿実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1044	巖島千畳閣実測図	1組9枚	31,500		
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1045	神魂神社本殿実測図	1組9枚	31,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工	七1046	鹿島神宮拝殿実測図	1組9枚	31,500		
			小計	377			
			累計	2,574			
昭和6年9月1日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1047	浅間神社本殿実測図	1組11枚	38,500		
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1048	金鑽神社塔婆実測図	1組10枚	35,000		
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1049	不退寺本堂実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1050	不退寺南門実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1051	不退寺塔婆実測図	1組4枚	14,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1052	法隆寺北院南門実測図	1組2枚	7,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1053	十輪院南門実測図	1組2枚	7,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1054	観心寺訶梨帝母天堂実測図	1組8枚	28,000		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1055	観心寺書院実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年7月14日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1056	松生院本堂実測図	1組8枚	28,000		○
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1057	秋篠寺本堂実測図	1組8枚	28,000		○
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1058	法華寺本堂実測図	1組7枚	24,500		○
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1059	新薬師寺東門実測図	1組3枚	10,500		○
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1060	新薬師寺南門実測図	1組4枚	14,000		○
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1061	文殊院白山堂実測図	1組2枚	7,000		○
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	七1062	於美阿志神社石塔婆実測図	1組1枚	3,500		

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
昭和6年10月3日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	セ1063	園城寺塔婆実測図	1組9枚	31.500		
昭和6年11月5日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	セ1064	櫻井神社拝殿実測図	1組8枚	28.000		○
昭和6年11月5日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	セ1065	吉備津神社南随神門実測図	1組6枚	21.000		○
昭和6年11月5日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	セ1066	平等院観音堂実測図	1組6枚	21.000		○
昭和6年11月5日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	セ1067	道成寺楼門実測図	1組9枚	31.500		○
昭和6年11月5日	臨時雇図工 柳吉治、 古川伊勢吉	セ1068	観菩提寺本堂実測図	1組7枚	24.500		○
昭和6年11月17日	益田篤士	セ1069	姫路城古図	1組1枚	35.000		○
昭和6年11月17日	山野直	セ1070	姫路城古図	1組1枚	35.000		○
昭和7年1月7日	臨時雇図工 古川伊勢吉	セ1071	富士嶽神社東宮本堂実測図	1組1枚	3.500		○
昭和7年1月7日	臨時雇図工 古川伊勢吉	セ1072	東大寺二月堂参籠所実測図	1組6枚	21.000		
昭和7年1月7日	臨時雇図工 古川伊勢吉	セ1073	石堂寺本堂実測図	1組8枚	28.000		○
昭和7年1月7日	臨時雇図工 古川伊勢吉	セ1074	園城寺金堂実測図	1組16枚	56.000		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1075	西願寺阿弥陀堂実測図	1組7枚	24.500		
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1076	東大寺二月堂閻伽井屋実測図	1組6枚	21.000		
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1077	長岳寺楼門実測図	1組5枚	17.500		
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1078	春日神社東舎実測図	1組2枚	7.000		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1079	春日神社祭器藏実測図	1組5枚	17.500		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1080	春日神社南廻廊実測図	1組3枚	10.500		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1081	吉田寺塔婆実測図	1組6枚	21.000		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1082	新薬師寺鐘楼実測図	1組7枚	24.500		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1083	八坂神社末社蛭子社々殿実測図	1組3枚	10.500		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1084	西明寺三重塔実測図	1組10枚	35.000		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1085	金剛寺多宝塔実測図	1組7枚	24.500		○
昭和7年7月30日	荘司、 大谷図工	セ1086	金剛寺御影堂実測図	1組7枚	24.500		○
昭和8年2月28日	大谷図工	セ1087	長谷寺本堂実測図	1組8枚	28.000		○
昭和8年2月28日	大谷図工	セ1088	堂島阿弥陀堂実測図	1組8枚	28.000		○
昭和8年2月28日	大谷図工	セ1089	油日神社本殿実測図	1組9枚	31.500		○
昭和8年2月28日	大谷図工	セ1090	白山姫神社本殿実測図	1組7枚	24.500		○
昭和10年12月10日	高瀬広次	セ1091	吉村邸実測図	1組14枚	70.000	大阪府南河内郡高鷲村島泉所在	○
昭和12年7月6日	藤島教授ヨリ 寄贈	セ1092	西村邸書院実測図	1組5枚	35.000		
昭和12年7月6日	藤島教授ヨリ 寄贈	セ1093	西村邸一部拓本実測図	1組3枚	6.000		○
昭和12年7月6日	藤島教授ヨリ 寄贈	セ1094	西村邸茶室松花堂実測図	1組6枚	42.000		○

記述がある欄のみ書き出した。  
各品目に後年書き加えられた印および線は右欄に追記として記した。

表4 に印 正倉院御物写シ巻物

年月日	納入	番号	品目	員数	価格	結末・備考	追記
39/8.6		に1-8		8巻	70.000		○